



FRI Business Incubation News

2006年7月13日

「BIS 対応」

銀行のBIS 対応とは何か

スイスにある国際決済銀行(Bank of International Settlements)は世界中の銀行に対して一定の自己資本の保持を求めています。銀行は日常の取引において他の銀行と様々な貸し借りの状態にあります。もし何かの事故(これを金融リスクと呼びます)で一つの銀行が倒産すると、貸し借りのある他の銀行を連鎖倒産させる可能性があります(これをシステムティックリスクと呼びます)。しかし、自己資本が厚ければ事故が起きても自己資本の取り崩しで吸収できます。わが国では金融庁の指導で2008年3月期からすべての銀行は8% *の自己資本を持つことになっています。これがBIS 対応と呼ばれるものです。

* (正確には、8% を求められるのは国際的な取引を行う銀行で、国内取引だけの銀行は4%。しかし、自己資本の厚さは信頼性の目安になるので10%と8%が標準になっています)

金融リスクにはどんなものがあるか

企業への貸出は、貸出先が倒産すれば焦げ付きます(信用リスク)。個人向けの住宅ローンも同様です。株や債券を持っていれば値下がりする可能性があります(市場リスク)。また、事務のミスやITの障害に起因する事故もリスクです(オペレーショナルリスク)。

同じ貸出でも大企業向けは比較的安全ですが中小企業向けはリスクが大きい。個人向け住宅ローンはかなり安全です。株は変動が激しいのでリスクは大きいとされていますが、国債は国がダメにならない限り償還されますからリスクはゼロとみなされています*。実務ではこれらすべてを1件1件を数値で細かく管理しています。

* (国債のリスクの扱いは、それぞれの国の監督当局に委ねられています)

問い合わせ先 富士通総研:金高(金融コンサルティング事業部Tel:03-5401-8386)
中林、佐々木、神尾(研究開発部Tel:03-5401-8394)

解説

玉子とバスケット

玉子是一个のバスケットに入れるなどと言います。複数のバスケットに入れておけば、一つを落としても他の玉子は割れません。金融リスクも基本は同じです。貸出先の業種・地域や株・債券を多種類に分散させることがリスク回避の大原則です。

ITが真髄を發揮する分野です

貸出先企業が将来倒産する確率を測るためには「倒産確率モデル」を作成し、財務データを使って計算します。将来のことですから1年後に確率何%という具合に確率として出します。技術的には、乱数を発生させたシミュレーションです。ITの先端技術を駆使しています。シミュレーション回数が多いほど正確な数値が出るので、一般的には一社当たり1万回~10万回になります。メガバンクだと20万企業に貸し出していますし、個人ローンは数百万件です。膨大な計算量が必要で、並列コンピューターやグリッドの技術が生かされています。

FRI) 研究開発部はトップレベル

FRIの「モデル作り」や「シミュレーション技術」は、わが国トップクラスの評価を受けています。金融リスクをより正確に計算すれば、余分な自己資本を削ぎ落とせます。シミュレーションを短時間でできれば、営業政策の変更を検証できます。銀行にとってリスク管理は経営戦略そのものです。